

※当レポートは株式会社
フィスコが目論見書を要約
し、類似企業はフィスコが
選択したものです。

湖北工業

6524・100株

12月21日東証2部上場

リード端子・光部品のGNT企業

アルミ電解コンデンサ用のリード端子及び光ファイバ通信網用の光部品・デバイスの製造・販売を行う。リード端子ではグループ全体で年間400億個あまりを生産し、光部品・デバイスでは高信頼性が要求される光アイソレータの製造販売に携わっている。IT・電気機器の世界的な需要拡大、自動車の電装化、光通信インフラの活発な投資が追い風。

業績成長率が高く、2020年には経済産業省の「グローバルニッチトップ企業100選」に選定されるなど、創業60年超かつ東証2部上場ながら個人投資家の物色人気に乗る可能性は十分ある。しかし、公開規模がかなり大きく、12/21はほかに3社が同時上場することは懸念材料

■IPOスケジュールと類似企業バリュエーション

日程	
仮条件提示	12月3日
ブックビルディング期間	12月6日～12月9日
公開価格決定	12月10日
申込期間	12月13日～12月16日
払込日	12月20日
上場日	12月21日

類似会社3社			
ニチコン<6996>	16.8倍(連)	→	4,967円
日ケミコン<6997>	7.8倍(連)	→	2,306円
精工技研<6834>	14.0倍(連)	→	4,139円

(PERは11月29日ザラバの会社側予想ベース)

決算期	業績推移 (百万円・%)					
	売上高	伸び率	経常利益	伸び率	純利益	伸び率
2017/12	6,482	-	425	-	311	-
2018/12	6,046	-6.7%	464	9.4%	358	15.1%
2019/12	6,649	10.0%	1,222	163.1%	597	66.7%
2020/12	7,835	17.8%	1,878	53.6%	1,220	104.2%
2021/12予	-	-	-	-	-	-

湖北工業

6524・100株
12月21日東証2部上場

連結業績推移 (百万円・%)						
決算期	売上高	伸び率	経常利益	伸び率	純利益	伸び率
2019/12	9,979	—	1,360	—	524	—
2020/12	11,176	12.0%	2,357	73.3%	1,562	197.8%
2021/12予	13,963	24.9%	3,770	59.9%	2,661	70.3%
2021/9 3Q	10,669	—	3,391	—	2,221	—
予想EPS/配当	単独：-円 連結：295.67円/-円 ※予想EPSは上場時発行済株式数で試算					

■業績コメント

2021年12月期の業績は、売上高が前期比24.9%増の139.6億円、経常利益が同59.9%増の37.7億円と増収増益の見通しとなっている。

同社グループは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う生産停止や納入停滞等のリスクの最小化を図りつつ、引き続き高付加価値製品の開発、厳格なコスト管理などに注力している。リード端子事業については、車載用半導体の供給不足等の懸念材料があったものの、環境対応自動車の普及や先進運転支援システムの実用化等自動車全体の電子化が進み、特にハイブリッドタイプのアルミ電解コンデンサが急拡大するなど、日系顧客を中心として旺盛な需要のなかで推移した。工場の自動化推進を背景とした産業機器の需要も堅調だった。一方、年初からの非鉄金属相場の高騰に拍車がかかったため、原価率の上昇による収益面での圧迫を受けたが、主材料の計画的調達に取り組むとともに、生産性改善、製品価格の是正に努めた。光部品・デバイス事業については、コロナ禍の環境下、テレワーク、クラウドサービス及びソーシャルメディア等の新たなアプリケーションの普及が拡大し、世界のブロードバンドトラフィックレベルが急増している。それに合わせて、5G(高速通信規格)通信ネットワークや海底ケーブル等の光通信インフラの投資が増強されており、主力製品である海底光通信用デバイスは引き続き堅調に推移した。

なお、通期計画に対する第3四半期末時点における進捗率は、売上高106.6億円で76.4%、経常利益33.9億円で89.9%となっている。

基本概要	
所在地	滋賀県長浜市高月町高月1623番地
代表者名(生年月日)	代表取締役社長 石井 太 (昭和33年8月21日生)
設立	昭和34年9月30日
資本金	3億5000万円 (令和3年11月16日現在)
従業員数	新規上場会社 160人 連結会社 1617人 (令和3年10月31日現在)
発行済株式数(上場時)	9,000,000株(予定)
公開株式数	公募 1,600,000株 売出 1,000,000株 (オーバーアロットメントによる売出390,000株)
想定公開規模	111.8億円～117.8億円(OA含む)
事業内容	アルミ電解コンデンサ用のリード端子及び光ファイバ通信網用の光部品・デバイスの製造・販売

湖北工業

6524・100株

12月21日東証2部上場

売上高構成比率（2020/12期 実績）				
品目	金額		比率	
リード端子事業	5,536	百万円	49.5	%
光部品・デバイス事業	5,640	百万円	50.5	%
合計	11,176	百万円	100.0	%

幹事証券団（予定）			
	証券会社名	引受株数	引受シェア
主幹事証券	野村證券(株)	未定	未定
幹事証券	三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	未定	未定
幹事証券	SMBC日興証券(株)	未定	未定
幹事証券	(株)SBI証券	未定	未定
幹事証券	西村証券(株)	未定	未定
幹事証券	丸三証券(株)	未定	未定
幹事証券	あかつき証券(株)	未定	未定

大株主上位10者とロックアップ		
株主名	持株比率	ロックアップ
石井 太（社長）	96.12%	90日間
湖北工業従業員持株会	1.62%	180日間
北川 一清	0.26%	90日間
国友 啓行	0.23%	90日間
加藤 隆司	0.23%	90日間
荒木 治人	0.23%	90日間
鈴木 基司	0.23%	90日間
高原 誠	0.23%	90日間
山田 大元	0.23%	90日間
山崎 学	0.23%	90日間

その他情報		
手取金の使途	設備投資資金として1,895百万円、連結子会社4社への投融資として2,166百万円を充当する予定	
関係会社	KOHOKU ELECTRONICS (S) PTE. LTD.（連結子会社） リード端子事業、光部品・デバイス事業 KOHOKU ELECTRONICS (M) SDN. BHD.（連結子会社） リード端子事業 東莞湖北電子有限公司（連結子会社） リード端子事業 他、連結子会社2社	
VC売却可能分（推定）	-社 -株（売出し・保有期間などの制限があるもの以外）	
直近有償第三者割当	年月日	-
	割当先	-
	発行価格	-

■ 銘柄紹介

同社グループの主な事業は、リード端子事業(アルミ電解コンデンサ用リード端子の製造・販売)、光部品・デバイス事業(光ファイバ通信網用光部品の製造・販売等)であり、各事業の内容は以下のとおり。同社は、リード端子の製造・販売を国内顧客向けに行っており、光部品・デバイスの製造・販売を国内顧客及び海外顧客向けに行っている。同社グループは、同社及び連結子会社5社により構成されている。

(1) リード端子事業

リード端子事業は、生活家電・情報通信機器・自動車等の、内部に電子基板を持つ製品に搭載されるアルミ電解コンデンサの主要構成部品であるリード端子の製造販売を行っている。1959年の設立当初からの創業事業であり、今日では同社グループ全体で年間400億個あまりを生産し、主要アルミ電解コンデンサメーカーへの供給を行っている。

i. 創業当初から、主要生産設備である溶接・プレス機を自社開発している。また、1980年代後半には、アルミ電解コンデンサの特性と品質の向上、製造工程の生産性向上のため、洗浄・化成工程並びに洗浄・化成装置を開発致した。その後も車載用途等の顧客からの要求事項に対応し、溶接・プレス機、洗浄・化成装置並びに各製造工程におけるノウハウの更新・改良を実施している。

ii. アルミ電解コンデンサの更なる特性向上と品質向上に寄与するため、次のような技術開発を行ってきた。これらはいずれも国際特許にて保護されている。

1. アルミ電解コンデンサの構成部品であるアルミ箔や電解紙(セパレータ)の破損を防止するため、プレス工程を改善し、突起物等の発生を抑制する技術(ノーバリ技術)を開発した。

2. リード端子の表面に発生し、アルミ電解コンデンサの破損の原因となるウイスカ(金属結晶が針状に成長する現象)を抑制するため、樹脂コーティング技術を開発した。

3. アルミ電解コンデンサのスリーブ破損と封口ゴム破損対策のため、Cp線の先端を丸目状に加工する技術を開発した。

iii. 創業当初から、主要アルミ電解コンデンサメーカーの工場拠点に近い立地での生産を進めてきた。特に日系アルミ電解コンデンサメーカーのASEAN地域、中国等への海外進出に呼応し、マレーシア、中国・東莞、中国・蘇州の3拠点に子会社を設立して生産を行っている。各生産拠点においては、同一設備、同一生産方法で生産を行うとともに、BCP(事業継続計画)に対応する体制を構築しており、長きにわたり安定供給を継続している。

近年において、成長市場とされる車載用途やネットワーク機器用途のアルミ電解コンデンサは、使用環境が厳しいうえに耐久性も求められるため、同社グループでは高い品質と信頼性の確立を企図し、量産技術の確立や品質管理の徹底を行うことにより、競合他社との差別化を図っている。同社のリード端子が使用されるアルミ電解コンデンサの主な用途として、テレビ、パソコン、ゲーム機、エアコン、洗濯機、自動車、太陽光発電機器等が挙げられる。

(2) 光部品・デバイス事業

光部品・デバイス事業は、今日の情報通信に欠かせない光ファイバ通信の機器や光モジュールに使用される「光部品(FA製品)」及び「光デバイス(YD製品)」を製造販売しており、特に1955年より高信頼性(水深6,000メートルの海底で25年間故障せず機能し続けること)が要求される光アイソレータの製造販売に携わっている。同社グループが製造販売する光部品・光デバイスは、長年培ってきた精密形状の石英ガラスの製造技術及び磁気光学材料の製造技術等のノウハウに基づく素子づくり、並びに光ファイバの高精度整列技術及び光学部品の高精度インテグラル(すり合わせ)技術に基づく精密組立の一貫生産を強みとし、競合他社との差別化を図っている。

免責事項(ディスクレーマー)

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなるを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山五丁目13番3号

株式会社フィスコ

電話:03-5774-2443(情報配信部) メールアドレス: support@fisco.co.jp